

心理学 専攻 基礎心理学 コース（博士前期）

試験科目：専門科目（心理学）

試験時間：（120）分

問Ⅰ（解答のポイント）

「APA心理学大辞典（培風館）」「心理学 新版（有斐閣）」など、心理学及び関連領域に関する各種辞典や専門書にあげられている、心理学の基本的（辞書的）定義が簡潔に述べられていること。

問Ⅱ（解答のポイント）

- (1) 神経心理検査の目的として、認知症のスクリーニング、鑑別診断、治療やケア方針の策定、治療効果の評価、権利擁護などに関する言及がある。検査方法として、代表的な検査名や尺度に関する言及がある。解釈の留意点として、背景要因や影響要因を考慮する必要があることや、結果をケアに活かす視点が重要な点が論じられている。
- (2) Maslowの欲求階層モデルについて、階層の各段階について適切に理解されていること、実証研究や臨床実践の視点などからこのモデルの限界点について適切な議論が展開されることが求められる。
- (3) 現実検討能力の概念を理解し、その臨床上の重要性を理解していることが求められる。その上で、理解している内容を論理的に記述することが求められる。
- (4) 不眠症における認知行動療法について、基本的な治療の流れならびに具体的な技法を理解したうえで、適切に記述することが求められる。
- (5) 自殺が発生する前の教育など予防的介入であるプリベンション、今まさに起こりつつある自殺のリスクに対して介入し自殺を防ぐインターベンション、自殺発生後に他の人々に及ぼす心理的影響を可能な限り少なくするための介入・対策であるポストベンションについて、それぞれの定義に沿った具体的な内容が書かれているかがポイントとなる。

(6)

	子ども中心プレイセラピー	精神分析的プレイセラピー
共通点	安全な守られた空間を提供すること 目標は、子どもが自分自身の感情や思考、行動を認識し、自分自身を受け入れられるようになること 治療者の共感的なあり方 子どもを1人の人間として尊重すること	
相違点	生成の側面を重視 子どもには、成長や成熟に向かおうとする子どもの生来の能力があることを信じる：治療者は治療過程を早めようなどとしなない。治療はゆっくりした歩みをもつものであり、治療者はそれをよく認識する セラピストは専ら言語的、非言語的に表現された子どもたちの感情を受容しリフレクトする	生成のプロセスの側面もあるが、修復のプロセスの側面も重視 解釈をする：子どもの苦しみや犠牲を必要以上の長期化させることは、なんの美德でもない

- (7) 視覚探索課題および特徴探索場面と結合探索場面について、標的刺激や妨害刺激の説明や定義、代表的な研究知見の内容が明確に記述できており、並列処理や逐次処理といった人の視覚的注意の特性を論じられている。
- (8) ステレオタイプおよびステレオタイプ化の概念を理解しており、またステレオタイプ化における活性化と適用のプロセスにおいて認知的処理資源が異なる働きを持つことを理解していること。さらにそれを示した具体的な研究例が正しく記載されていること。
- (9) 光遺伝学（オプトジェネティクス）の原理を理解し、光感受性タンパク質を遺伝子導入することで、光によって特定の神経細胞の活動を制御する技法であることを説明することが求められる。その上で、具体的な研究例を挙げつつ、意義として、特定の神経回路が行動や情動に及ぼす因果的役割を直接検証できる点を述べる必要がある。
- (10) 学習評価における集団準拠評価と目標準拠評価の特徴を理解しており、違いを対比的に複数あげて記述できること。

心理学 専攻 臨床心理学 コース（博士前期）

試験科目：専門科目（心理学）

試験時間：（120）分

問Ⅰ（解答のポイント）

「APA心理学大辞典（培風館）」「心理学 新版（有斐閣）」など、心理学及び関連領域に関する各種辞典や専門書にあげられている、心理学の基本的（辞書的）定義が簡潔に述べられていること。

問Ⅱ（解答のポイント）

- (1) 神経心理検査の目的として、認知症のスクリーニング、鑑別診断、治療やケア方針の策定、治療効果の評価、権利擁護などに関する言及がある。検査方法として、代表的な検査名や尺度に関する言及がある。解釈の留意点として、背景要因や影響要因を考慮する必要があることや、結果をケアに活かす視点が重要な点が論じられている。
- (2) Maslowの欲求階層モデルについて、階層の各段階について適切に理解されていること、実証研究や臨床実践の視点などからこのモデルの限界点について適切な議論が展開されることが求められる。
- (3) 現実検討能力の概念を理解し、その臨床上の重要性を理解していることが求められる。その上で、理解している内容を論理的に記述することが求められる。
- (4) 不眠症における認知行動療法について、基本的な治療の流れならびに具体的な技法を理解したうえで、適切に記述することが求められる。
- (5) 自殺が発生する前の教育など予防的介入であるプリベンション、今まさに起こりつつある自殺のリスクに対して介入し自殺を防ぐインターベンション、自殺発生後に他の人々に及ぼす心理的影響を可能な限り少なくするための介入・対策であるポストベンションについて、それぞれの定義に沿った具体的な内容が書かれているかがポイントとなる。

(6)

	子ども中心プレイセラピー	精神分析的プレイセラピー
共通点	安全な守られた空間を提供すること 目標は、子どもが自分自身の感情や思考、行動を認識し、自分自身を受け入れられるようになること 治療者の共感的なあり方 子どもを1人の人間として尊重すること	
相違点	生成の側面を重視 子どもには、成長や成熟に向かおうとする子どもの生来の能力があることを信じる：治療者は治療過程を早めようなどとしめない。治療はゆっくりした歩みをもつものであり、治療者はそれをよく認識する セラピストは専ら言語的、非言語的に表現された子どもたちの感情を受容しリフレクトする	生成のプロセスの側面もあるが、修復のプロセスの側面も重視 解釈をする：子どもの苦しみや犠牲を必要以上の長期化させることは、なんの美德でもない

- (7) 視覚探索課題および特徴探索場面と結合探索場面について、標的刺激や妨害刺激の説明や定義、代表的な研究知見の内容が明確に記述できており、並列処理や逐次処理といった人の視覚的注意の特性を論じられている。
- (8) ステレオタイプおよびステレオタイプ化の概念を理解しており、またステレオタイプ化における活性化と適用のプロセスにおいて認知的処理資源が異なる働きを持つことを理解していること。さらにそれを示した具体的な研究例が正しく記載されていること。
- (9) 光遺伝学（オプトジェネティクス）の原理を理解し、光感受性タンパク質を遺伝子導入することで、光によって特定の神経細胞の活動を制御する技法であることを説明することが求められる。その上で、具体的な研究例を挙げつつ、意義として、特定の神経回路が行動や情動に及ぼす因果的役割を直接検証できる点を述べる必要がある。
- (10) 学習評価における集団準拠評価と目標準拠評価の特徴を理解しており、違いを対比的に複数あげて記述できること。